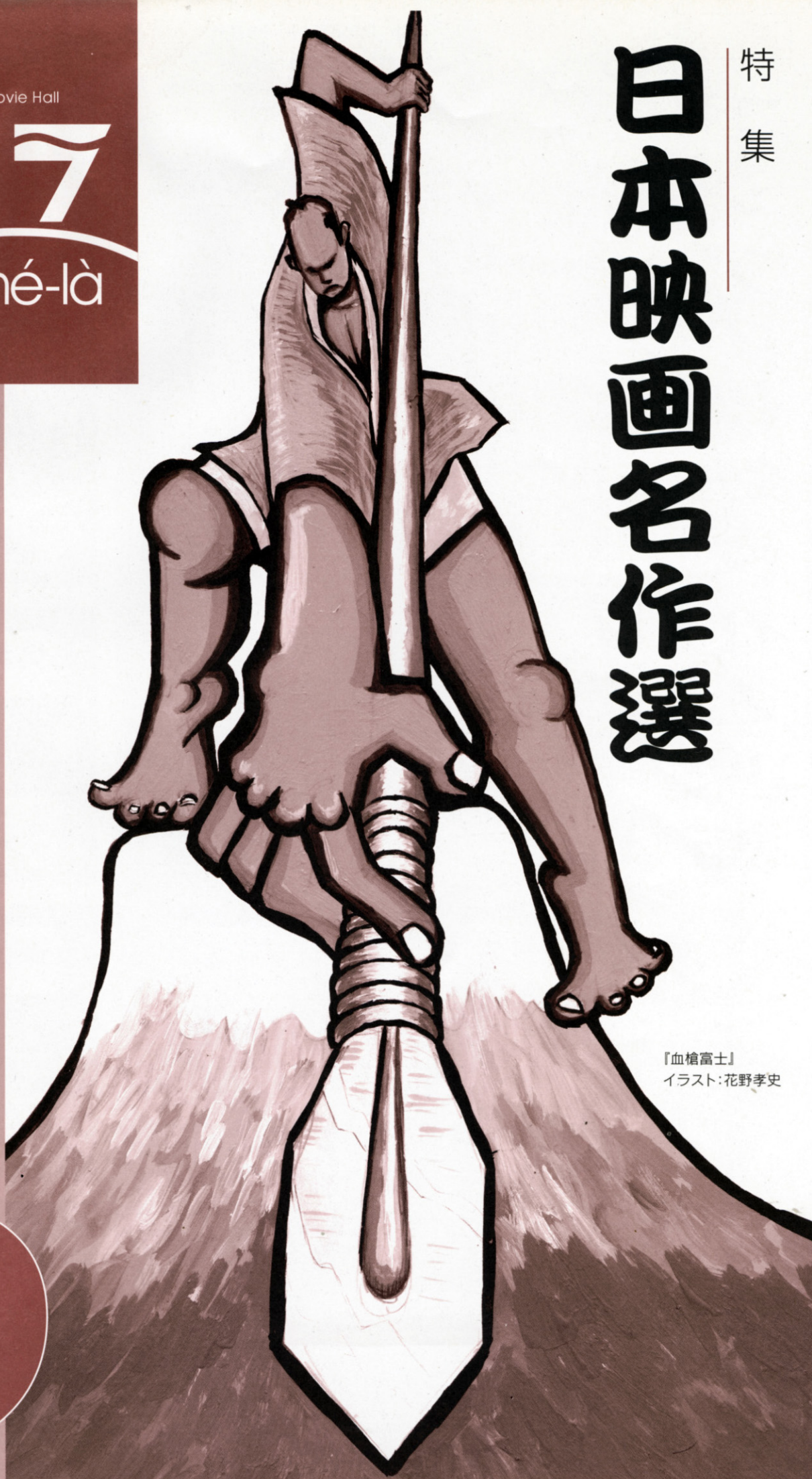


特
集

日本映画名作選

『血槍富士』
イラスト:花野孝史



シネラ
Ciné-là

福岡市総合図書館映像ホール
Fukuoka City Public Library Movie Hall

シネラ・ニュース
September.2001 No.62

特
集

アジアの伝統文化と映画

9

アジアの伝統文化と映画

アジアの伝統文化を背景とした映画の特集。

会期：5日(水)～9日(日)

観覧料：500円(大人)

400円(大学生・高校生)

300円(中学生・小学生)

※定員制・各回入替制

※チケットはすべて当日券。前売り券はありません。

※福岡市在住の障害者の方は無料。福岡市在住の65才以上の方は半額。(手帳の提示が必要です。)

映画の中の伝統文化

映画は人間と社会を描くもので、伝統文化そのものを描くことを目的としたものはありません。しかし映画は多くの伝統文化と共に、その中で生きる人々を描いています。伝統文化は人生を豊かにするものでもあり、また束縛するものでもあります。また「ラスト・マレー・ウーマン」のように近代化の過程で、自らの文化的アイデンティティに混乱をきたすことも、アジアの多くの国で見られることです。

映画は伝統文化を背景とすることで、映画の中にその国独特の感性なり、リズムなりを呼び込み、その中で生きる人々の思考・精神が表現しやすくなる傾向があるようです。映画を見る観客にとって、それは大きな説得力であり、リアリティでもあります。またまったく未知の文化にふれる驚きも、映画を見る喜びの一つと言えるでしょう。

今回上映する5本の作品はいずれも、それぞれの国の伝統文化を描きながら、そこに生きる人々の心を深く描いた秀作です。文化と人の関わりについて考えながら鑑賞するのも可能ではないでしょうか。

5[水] 14:00 沙河悲歌

8[土] 15:00

Lament of the Sand River
日本語・英語字幕付き

監督：チャン・チヨン

出演：ホアン・ヤノン

2000年/35ミリ/カラー/108分/台湾

戦後間もない頃の台湾。トランペット奏者になることを夢見るブンリオンは、家を出て旅回りの歌劇一座に伴奏者として入る。ある日ブンリオンは酒場でツァイフンという女性と出会い、同棲を始める。芸術を追い求めながら、思うに任せぬ現実の中で苦悶するブンリオンの人生が、歌劇一座との交流の中に描かれる。



5[水] 19:00 ラスト・マレー・ウーマン

7[金] 14:00

The Last Malay Women
日本語・英語字幕付き

監督：エルマ・ファティマ

出演：エイズラン・ユソフ

1997年/35ミリ/カラー/117分/マレーシア

ロンドン留学経験を持つ劇作家のハイカルは、演劇は不入りであり、ハイカルはマレー人にとっての演劇とは何かについて悩む日々を送っていた。休養を取りリゾートホテルに滞在するハイカルは、そこでホテルで働く美しい女性ムスティカと出会う。マレー文化とは何かという問いが恋愛ドラマの中に描かれていく。



6[木] 14:00 魅惑

8[土] 11:00

The Love-Stricken
日本語・英語字幕付き

監督：アリ・ハタミ

出演：ファラマルズ・セディキ

1992年/35ミリ/カラー/91分/イラン

20世紀初頭、アフマッド・シャー王は音楽を愛しており、イランの伝統音楽をフランスで録音レコードを作ることにする。イラン各地から集められた楽器演奏の名手達が楽団を結成しパリへ向かうが、楽団は財政難に直面、リーダーのデルナバズは自宅を売却して資金を作るのだった。



6[木] 19:00 最後の舞

9[日] 15:00

The Last Dance
日本語・英語字幕付き

監督：シャージ・N・カルン

出演：モーハンラール

1999年/35ミリ/カラー/119分/インド

インド古典舞踊であるカタカリの名手であるクニニクタンは、ある日寺院の祭りでカタカリを舞い、そこでスパドラマという女性と出会う。彼女はクニニクタンをカタカリの神と同一視し、二人は愛し合うようになる。現実と虚構を織り交ぜ、幻想的なカタカリの世界が展開する作品。



7[金] 19:00 ハンネの昇天

9[日] 11:00

The Hanne's Ascension
日本語字幕付き

監督：ハ・ギルジョン

出演：ハ・ミョンジュン

1977年/35ミリ/カラー/108分/韓国

マンミョンは、投身自殺を図ったハンネを助け看病する。村は丁度の祭りの準備の最中で、外部の人間が村に居るのは不吉だとし、村長はマンミョンにハンネを追いつくように脅かすのだった。古い仏教説話を元にして、閉鎖的な山村を舞台にした物語で、伝統的な祭りが映画を盛り上げていく。



12日(水)14:00/22日(土)11:00

河内山宗俊



監督：山中貞雄
出演：河原崎長十郎
原 節子

戦前の天才監督・山中貞雄の現存する数少ない作品の一つ。歌舞伎の天保六花撰の一人、河内山宗俊を取り上げた山中のオリジナルストーリーであり、三村伸太郎が脚色している。情婦の居酒屋で勝手に暮らす河内山宗俊。森田屋一家の用心棒、金子市之丞。ある日、二人のマドンナの少女が森田屋達のために、身売りされそうになる。宗俊と市之丞は、少女を救うため命をかけて戦うことを決意する。

1936年/16ミリ/モノクロ/81分/日活京都=太秦発声

13日(木)14:00/23日(日・祝)11:00

悲しき口笛



監督：家城巳代治
出演：美空ひばり
津島恵子

「天才少女歌手」から、戦後日本を代表する歌手となった美空ひばりの曲をタイトルとし、少女時代のひばり自らが本格的な主演を果たした最初の作品。また戦後盛んに製作された歌謡映画のはりでもある。敗戦後、外地から復員してきた兄が、歌が好きだった妹を探す。手がかりは出征前に自ら作曲した「悲しき口笛」の歌だけ。これに麻薬の密輸団が絡み、ドラマは進行していく。

1949年/35ミリ/モノクロ/83分/松竹

12日(水)19:00/23日(日・祝)15:00

偽れる盛装



監督：吉村公三郎
出演：京 マチ子
藤田泰子

シナリオは新藤兼人。新藤が吉村とともに松竹を飛び出し、近代映画協会を設立したきっかけとなった作品でもある。舞台は戦後の京都の花柳界、人情に流されずに男を利用し、ドライに生きる若い芸者の姿を、役所勤めの妹の姿と対比して描く。吉村公三郎＝新藤兼人のコンビの代表作の一つであり、京都・祇園の生活・風俗がきびきびとした描写で描かれていく。主演の京マチ子の演技もすばらしい。

1951年/35ミリ/モノクロ/103分/大映

15日(土・祝)11:00/21日(金)19:00

血槍富士



監督：内田吐夢
出演：片岡千恵蔵
島田照夫

戦時中、中国に渡り、戦後も9年間大陸に留まっていた内田吐夢が帰国後作った最初の作品。戦前時代劇の名映画監督である井上金太郎の追悼映画として企画され、彼の戦前の作品「道中悲記」を三村伸太郎、八尋不二らが脚色している。平素は穏和で人がいいが、酒乱の悪癖のある侍が、お供と槍持ちを従え、江戸に向かい旅を続けている。一行は道中や宿場でいろんな人々に出会う。ラストの大立ち回りも秀逸な作品。

1955年/35ミリ/モノクロ/94分/東映

20日(木)19:00/27日(木)14:00

博多っ子純情



監督：曾根中生
出演：光石 研
小池朝雄

漫画家・長谷川法世による当時人気を博した長編漫画の映画化。性に目覚め、異性に興味を示し出し始め、友達の前でいきがって見せようとする普通の男子中学生三人組の毎日を誇張と笑いを交えて描く、古き良き福岡・博多を舞台とした青春グラフィティ。監督の曾根中生は素人の男子中学生を生き生きと動かして、おおかた楽しい作品に仕上げている。ラストの大乱闘の破天荒さは爽快。

1978年/35ミリ/カラー/94分/エル・アイ・エル=映興

日本映画名作選

9月は恒例の日本映画の名作特集。今年の英語字幕版は、寅さん映画の原点「男はつらいよ」シリーズ第一作。

会 期：12日(水)～29日(土)

※休館日・休映日を除く

観覧料：500円(大人)

400円(大学生・高校生)

300円(中学生・小学生)

※定員制、各回入替制。

※チケットはすべて当日券です。前売り券はありません。

※福岡市在住の障害者の方は無料、福岡市在住の65才以上の方は半額。(手帳の提示が必要です。)

16日(日)11:00/20日(木)14:00/28日(金)19:00

麦 秋



監督：小津安二郎
出演：原 節子
菅井一郎

1951年/35ミリ/モノクロ/125分/松竹

戦後の小津映画の代表作の一つ。娘の結婚を巡って、家族や娘の上司が心配し、結婚話を勧めるが、娘は突然、兄のように慕っていた子持ちの男性と結婚すると言い出す。1949年の「晩春」以降、小津は日本の中流家庭の「家族」の変化に焦点をあてた作品を作り続ける。本作もそうした戦後小津作品の代表作の一つであり、完成された小津の映像、演出スタイルを堪能できる作品である。

19日(水)14:00/24日(月・休)11:00

ニッポン無責任時代



監督：古澤憲吾
出演：植木 等
重山規子

1962年/35ミリ/カラー/86分/東宝

60年代を代表する喜劇映画「無責任」シリーズの第一作。当時「スーダラ節」のヒットで人気だったコミックバンド「クレージー・キャッツ」の植木等が、主人公「平均(たいりょうとし)」を演じ、他のメンバーも総出演している。いい加減で調子者の主人公が、洋酒会社にもぐり込み、あれよあれよという間に社長にまで上り詰める。本作の予想以上の人気で急遽シリーズ化が決定した。

14日(金)19:00/24日(月・休)15:00

海と毒薬



監督：熊井 啓
出演：奥田瑛二
渡辺 謙

1986年/35ミリ/モノクロ/123分/「海と毒薬」製作委員会

遠藤周作の同名小説を社会派監督の熊井啓が映画化。第二次大戦末期、九州で実際にあった米軍捕虜に対する生体解剖事件を題材としており、原作発表当時から話題となった。人間を生きたまま解剖する「生体解剖」に参加させられた対照的な若い二人の医師の姿を通じて、戦争という狂気と人の良心の在処を突き詰めていく。生体解剖シーンの精緻な描写が圧巻。

13日(木)19:00/22日(土)15:00

花と龍



監督：山下耕作
出演：中村錦之助
佐久間良子

1965年/35ミリ/カラー/97分/東映

「花と龍」は1954年東映で初映画化以降、幾度も映画化されており、本作は3度目の映画化にあたる。筑豊炭田の石炭の荷揚げや鉄工業など、にぎわう明治末の北九州を舞台に、沖仲仕から身を起し、九州一帯の港湾荷役を手中に収めることになる玉井金五郎と彼の妻・まん。金五郎とまんの出会い、彼が一家を構えるまでを描いている。また翌年には同じ監督、キャストで続編も作られている。

27日(木)19:00/29日(土)11:00

しろばんば



監督：滝沢英輔
出演：島村 徹
北林谷米

1961年/35ミリ/モノクロ/101分/日活

雑誌連載された井上靖の原作を「二十四の瞳」の木下恵介が脚本、滝沢英輔が監督した文芸作品。冬の伊豆の山々で夕暮れ時に綿肩のような白い小さな生き物が浮遊し、子供達はそれを「しろばんば」と呼んだ。大正時代の伊豆の旧家を舞台に少年には理解しがたい旧家のプライドや大人の複雑な愛憎、美しい叔母に感じるほのかな恋心など、多感な少年の微妙な心の変化と成長と、彼を取り巻く人間模様を美しい映像で描いていく。

15日(土・祝)15:00/16日(日)15:00

男はつらいよ

英語字幕付き

戦後日本映画を代表する「男はつらいよ」のシリーズ第一作。このシリーズは1995年まで48作続き、世界的にもまれな長寿シリーズとなったが、主役の寅さんを演じた渥美清の死によって幕を閉じた。香具師の「寅さん」こと車寅次郎は故郷の葛飾・柴又のだんご屋に舞い戻ってきて、妹・さくらのお見合いを台無しにしてしまう。名落語家の長屋物のような笑いと人情に溢れた作品。

監督：山田洋次

出演：渥美 清、倍賞千恵子

1969年/35ミリ/カラー/91分/松竹

Tora-san, Our Loveable Tramp

English subtitled

This is the first of the "Tora-san" series, a major representation of post war Japanese cinema. The series, long standing even in international standards, lasted 48 episodes up through 1995, but was terminated on account of the sudden death of Kiyoshi Atsumi, who played the leading character of "Tora-san". Tora Kuruma, the charlatan and main character, returns to his home, a store selling dumplings in a traditional shopping district in Tokyo. There he becomes involved in the marriage match of his sister, Sakura and starts to get everyone in trouble... A highly recommended comedy filled with human emotions.

Directed by Yoji Yamada

Starring Kiyoshi Atsumi, Chieko Baisho

1969/35mm/Color/91 minutes/Shochiku

今年も、福岡市総合図書館では、外国からのお客様や福岡に駐在する外国の方々のために、日本の映画の傑作に英語字幕を付けて上映いたします。これまでに字幕を入れた作品は黒澤明の「羅生門(Rashomon)」や、成瀬巳喜男の「浮雲(Floating Clouds)」などです。準備の都合上、一年に一度しかできません。この機会に是非ご覧下さい。

Again this year, the Fukuoka City Public Library will be involved in putting its own subtitles to a masterpiece of Japanese cinema, for foreigners both visiting and residing in Fukuoka to enjoy. Previous subtitled masterpieces included Akira Kurosawa's "Rashomon" and Mikio Naruse's "Floating Clouds". Because special preparations are involved, these subtitles can only be presented once a year. For this reason, we highly recommend you take the opportunity to see this year's English subtitled Japanese masterpiece.

19日(水)19:00/21日(金)14:00

田園に死す



監督：寺山修司
出演：菅貫太郎
八千草薫

1974年/35ミリ/カラー/101分/人力飛行機舎=ATG

詩や、エッセイ、演劇、映画など多方面で活躍した作家、寺山修司の映画における代表作の一つ。寺山自身による同名の詩集を基にした作品であり、過去と現在、美化された虚構と現実が幾層にも重なりあい、彼の詩が随所にちりばめられる構成、白塗りの少年、怪しげなサーカス団、母親に対するコンプレックスなどマルチ作家・寺山修司の世界の集大成ともいえる作品である。

28日(金)14:00/29日(土)15:00

赤穂浪士(天の巻・地の巻)



監督：松田定次
出演：市川右太衛門
片岡千恵蔵

1956年/35ミリ/カラー/151分/東映

時代劇映画の定番として何度も映画化されている「忠臣蔵」の中でも戦後の作品としては特に評価の高い作品の一つが、この「赤穂浪士(天の巻・地の巻)」である。大佛次郎の原作をもとにした新藤兼人のシナリオは、それまでにない新鮮な視点で注目され高い評価を獲得した。この作品を含め、三本の「忠臣蔵」映画を監督した松田定次も本作が最も気に入っていたという。

ジェームズ・ディーンの
ミドル・ネームは…

そのむかし、ビデオが無かった頃、四日市という地方都市で暮らしていた中学生の私にとって、映画のほとんどは観ることができないものでした。映画館にかかるのはハリウッド映画や大手配給の日本映画の新作ロードショーだけ。過去の傑作とか名作と呼ばれている作品は、TVでオンエアされるのを奇蹟のように待ち続けねばなりません。私はそのようにして、深夜のTV映画で、たとえば『理由なき反抗』や『真夜中のカーボーイ』を観たものです。

しかし、他に映画を観る方法が無かったわけではありません。映画の本で紹介されている解説や2、3枚のスチール写真、それに原作本、あるいは『サントラ』でもって、一本の映画を想像すること。これもまた映画を観るという体験だったのだと思います。今ふりかえると、それこそが究極の体験だったと言いたくなる。

とは言え、貧乏な中学生には限界があります。そこを補ってくれたのがラジオ・ドラマ。むかしはよくラジオで映画のリメイクをやっていました。それをこまめにチェックし、逃すこと無くカセットに録音し、繰り返し聞かれました。私はそうやって、たとえば『2001年宇宙の旅』を『聞き』ました。こ

の作品は中学生には難解なので、原作も読んでみましたが、余計に判らなくなりました。その後ももちろん映画の方も観ていますが、ラジオ・ドラマ版『2001年』を何度も聞いて、頭のなかでとんでもないイメージを描いていた私にとっては、とにかく最初の衝撃が全てでした。

私がつもつと好んで繰り返し聞いていたのは、FM東京の「ふたりの部屋」という15分番組で2週にわたって放送された(ものをカセットに録音した)「ジェームズ・ディーンの生涯」です。そのなかで、唐突に一篇の詩が朗読される場面があります。クライマックス、ジミーが自動車事故を起した直後、急ブレーキと衝突音に続く静寂のなかでその詩が読まれる。「短い鉄の橋を渡って」という詩です。

私は、ジェームズ・ディーンのミドルネームが「バイロン」であることを知っていたので、さっそく図書館に行って「バイロン」の詩集をめぐってみました。しかし「短い鉄の橋を渡って」なる詩はどこにもありません。それに言葉のテイストも全然違う。しょうがないので図書館にある詩集という詩集を片っ端に引っこ抜いて調べ始めました。それが、図書館を積極的に利用した最初の体験だったと思います。

さて、「短い鉄の橋を渡って」という詩は誰の作品でしょう。私はそのおよそ5年後、大学の近くにある古本屋の店先で、偶然にその詩と遭遇しました。「やっと出会えた」という喜びで、泣きそうになったことを今でも覚えています。



映像資料課映像管理員 松本圭二

お知らせ

各団体の自主上映

- 9月1日(土) 11:00/14:00
「同胞(はらから)」(監督:山田洋次)
観覧料/前売:1,200円
当日:1,400円
中高生・シニア:1,000円
主 催/福岡映画サークル協議会
(Tel. 092-781-2817)

- 9月2日(日) 10:30(午前の部)/14:00(午後の部)
美空ひばりチャリティ 懐かしの映画会(2本立て)
「ひばり民謡の旅・桜島 おてもやん」
(監督:渡辺邦男)
「ひばり捕物帖 かんざし小判」(監督:沢島忠)
観覧料/前売:1,300円
当日:1,500円
主 催/美空ひばり後援会九州ブロック
(Tel. 092-714-0417 牛島弘子<月>金曜)

※自主上映の詳細については、直接主催者にお問い合わせ下さい。

シネラNEWS送付のご案内

定期購読ご希望の方に毎月シネラNEWSをお届けしております。購読を希望される方は、平成13年10月号～平成14年3月号までの郵便切手(90円×6ヵ月)を同封の上、下記宛先へお申し込みください。
宛先:〒814-0001 福岡市早良区百道浜3-7-1
福岡市総合図書館 映像資料課

ビデオ編集技術研修室閉鎖のお知らせ

ビデオ編集技術研修室では、デジタルビデオ対応等に伴う編集機材入れ替えのため、8月20日(月)から10月1日(月)までの間、ビデオ編集技術研修室を閉鎖させていただきます。利用者の方にはご迷惑をおかけしますが、ご理解をお願いいたします。

※お問い合わせは福岡市総合図書館映像資料課まで

次号予告

※変更の場合もあります。あらかじめご了承ください。

10月3日(水)～12日(金)

伊藤大輔監督特集

「御洗次郎吉格子」「素浪人罷通る」「王将」「大江戸五人男」「下郎の首」
「切られ与三郎」「叛逆児」

10月17日(水)～26日(金)

モンゴル映画特集

「モンゴルの息子」「牙」「至福の禍」「風雲の聖者」「さまよう雄鹿」「ゴビの聖者」
「新文字先生」「愛のさだめ」

Fukuoka City Public Library Movie Hall Ciné-là

福岡市総合図書館映像ホール・シネラ

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号

福岡市総合図書館(代表) 092(852)0600 映像資料課 092(852)0608 Fax. 092(852)0609

福岡市総合図書館ホームページアドレス <http://toshokan.city.fukuoka.jp/>

1 土	自主上映「同胞(はらから)」	
2 日	自主上映「美空ひばりチャリティ懐かしの映画会」	
3 月	休 館 日	
4 火	休 映 日	
5 水	14:00 アジアの 伝統文化 と映画 沙河悲歌	19:00 ラスト・マレー・ウーマン
6 木	14:00 魅 惑	19:00 最後の舞
7 金	14:00 ラスト・マレー・ウーマン	19:00 ハンネの昇天
8 土	11:00 魅 惑	15:00 沙河悲歌
9 日	11:00 ハンネの昇天	15:00 最後の舞
10月	休 館 日	
11火	休 映 日	
12水	14:00 河内山宗俊	19:00 偽れる盛装
13木	14:00 悲しき口笛	19:00 花と龍
14金	14:00の上映はありません。	
15土祝	11:00 血槍富士	15:00 男はつらいよ
16日	11:00 麦 秋	15:00 男はつらいよ
17月	休 館 日	
18火	休 映 日	
19水	14:00 ニッポン無責任時代	19:00 田園に死す
20木	14:00 麦 秋	19:00 博多っ子純情
21金	14:00 田園に死す	19:00 血槍富士
22土	11:00 河内山宗俊	15:00 花と龍
23日祝	11:00 悲しき口笛	15:00 偽れる盛装
24月休	11:00 ニッポン無責任時代	15:00 海と毒薬
25火	休 館 日	
26水	休 映 日	
27木	14:00 博多っ子純情	19:00 しろばんば
28金	14:00 赤穂浪士	19:00 麦 秋
29土	11:00 しろばんば	15:00 赤穂浪士
30日	月 末 休 館 日	



交通アクセス: 当館の駐車場スペースに限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。
地下鉄: 西新駅または藤崎駅から徒歩15分
西鉄バス: 天神～都市高速線由～福岡タワー南口 (所要時間 昼間で約20分)
博多駅～都市高速線由～福岡タワー南口 (所要時間 昼間で約25分)
福岡タワー南口バス停から徒歩3分
いずれも、昼間は10～15分間隔で運行されていますので大変便利です。
お近くのバス停からのご利用につきましては、西日本鉄道テレホンセンター(電話 733-3333)に直接お問い合わせください。

編集雑誌

また、アジアフォーカス・福岡映画祭の季節が巡ってきました。ということは、シネラでは「日本映画名作選」。そして、英語字幕付きで上映する今年の日本映画は、あの「男はつらいよ」です。寅さんの名セリフが英語になります!ご期待下さい。一方、アジア映画の方は、アジアの伝統文化を背景にした映画の特集です。9月は放生会。そして、アジアと映画に夢中になる季節だと思いが、いかがですか? (M.Y.)